

第1学年 国語科学習指導案

は組 男子 17 名 女子 18 名 計 35 名

指導者 下戸 勇介

1 単元 たのしく よもう (教材「はなのみち」 光村 1 年上)

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

この期の子どもたちは、「どんなおはなしか」の学習で、場面の様子について、挿絵を手掛かりに想像しながら読む能力や、興味をもって絵本を読もうとする態度を身に付けつつある。また、想像したことを友達に伝えたい、もう少し長い読み物を読みたいという願いをもっている。

そこで、本単元では、感性・情緒の側面から、場面の様子や登場人物の行動など内容の大体を捉える能力や、挿絵を基に動物の言葉を想像して紙芝居を作り友達と比較し、その言葉の違いを楽しもうとする態度を身に付けさせたいと考え、単元「たのしくよもう」(教材「はなのみち」)を設定した。

この学習は、内容や文章のリズムに注意して音読し、場面の様子について想像を広げながら読む単元「こえをだして、たのしくよもう」(教材「おむすびころりん」)へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

教材「はなのみち」は、主人公であるくまさんが袋の中身をなくしてしまうものの、実は袋の中身は花の種であり、春になりくまさんが歩いた道に花の一本道ができるという絵物語である。話の最後で袋の中身の正体が分かるとともに、失敗したと思っていたことが逆に好結果を生んだという話の展開のおもしろさが味わえる本教材は、良い・悪いといった結果のみで判断しがちなこの期の子どもたちにとって、過程の大切さを考えながら読むのに適した教材である。また、本教材は、起承転結の四つのそれぞれの場面に簡単な主述のある文と親しみやすい挿絵が添えられており、文と挿絵を対応させて内容を捉えることや、挿絵に出ている動物の言動を新たに考えて、友達と比較することで、楽しみながら読むのに適した教材である。

そこで、本単元では、動物たちの表情や行動を手掛かりに会話や気持ちを考えさせ、本文にその言葉を書き加えながら読み進めさせる。その際、動物たちの言動等に自分なりの思いや考えを付け加えながら紙芝居を作り、交流することを単元の言語活動として設定する。その上で、場面ごとに動物たちがどんな会話をしているかという課題意識をもたせ、必要感をもって教材文や挿絵を読ませることが大切である。

具体的には、まず、教師が作成した紙芝居をモデルとして鑑賞させる活動を導入段階で行い、動物たちの言動や感想を付け加えると物語がより楽しくなることに気付かせる。そして、試し作りとして紙芝居の一枚目の動物たちがどんな会話をしているか課題意識をもたせ、その言葉を自分なりに想像して付け加え、音読を交流する楽しさを味わわせることで、紙芝居を作りたいという意欲を高めさせる。また、終末段階で自作の紙芝居を友達同士で発表し合うことを確認し、教材を読む価値を実感させる。

次に、教材「はなのみち」を場面ごとに、叙述と挿絵の中に出てくるものや色から気付いたことを対応させて、野原などの場面や動物たちの様子について話を膨らませ、紙芝居を作り音読をさせる。その際、なぜそのように考えたのかを、行動や会話などの叙述や挿絵から想像したことを基に説明できるようにする。また、場面ごとにでき上がった紙芝居を友達と交流させることで、一人一人の感じ方に違いがあることに気付かせるとともに、登場人物の言動を考えることの楽しさを味わわせる。

さらに、終末段階では、まとめた紙芝居を友達同士で発表し合い、想像を膨らませて選んだ言葉や互いの音読の仕方について意見交換させ、それぞれの学習に対する成就感や達成感を味わわせるとともに、身に付けた国語の能力の価値を実感させる。

これらの学習を通して、感情や想像を言葉にする力や、言葉を通じて伝え合う力を高めることができる。その中でも、文学的文章を読む際に、挿絵や会話文、様子を表す言葉などに着目し場面の様子について想像したことを、既習、他者、教材とつなぎながら自分の考えを強固・付加・修正し、読書の楽しさを味わいながら読むことができるようにする。このような学習を積み重ねることで、言葉同士の関係性を問い直して考えを形成し、自分の思いや考えを深めることができるようになっていく。

(3) 子どもの実態

本学級の子どもたちが、本単元の学習や本教材に対して、どのような興味や関心をもっているかを調査した結果は、次のとおりである。(数字は、人数を表す)

① 初発の感想	
好きな場面	理由
場面1 (8)	わくわくする (4), くまが好き (1), 小鳥がかわいい (1), 無回答 (2)
場面2 (6)	種を落としているのがおもしろい (3), きつねが好き (1), りすが好き (1), 無回答 (1)
場面3 (5)	おもしろい (2), りすがかわいい (2), 無回答 (1)
場面4 (16)	花がきれい (8), 動物がたくさんいる (5), よろこんでいる (3)
② 「はなのみち」の内容の読み取り	
ア 袋の中身	花の種 (16), どんぐり (6), 花 (5), おやつ (2), おもちゃ (2), 無回答 (4)
イ 花の道ができた理由	くまが落としたものが原因 (23), 春の到来 (3), 花を植えた (2), 無回答 (7)
ウ 動物の言葉の想像	主題をとらえた回答 (15), 主題をとらえていない回答 (15), 無回答 (5)
③ 音読の実態	
○ 音読 (字が読める)	
・すらすらできる (10) ・ゆっくりできる (25) ・できない (0)	
○ 語のまとまりに気を付けた音読	
・語のまとまりに気を付けて読める (16) ・語のまとまりに気を付けてゆっくり読める (11)	
④ 言語活動について ※複数回答	
○ 紙芝居 ・作ってみたい (35) ・読みたい (31) ・聞きたい (25)	

多くの子どもたちは、場面4を好きな場面として挙げている(①)。これは、子どもたちが挿絵を基に、花が咲いて動物たちが喜んでいる様子から、場面の明るい雰囲気を捉えているからだと考えられる。しかし、花の道ができた理由として、くまが種を落としたからだという理由を考えながら読むことのできている子どもは、半数以下であった(②アイ)。これは、これまで理由を考えながら読み物を読んだ経験が少ないからだと考えられる。また、動物たちがかわす挨拶や日常会話等を考えることはできるが、季節の変化や動物たちの行動から考えた場面の様子などを自分の言葉で表現できる子どもは少ない(②ウ)。これは、叙述や挿絵を手掛かりに、場面の様子を想像しながら読み物を読んだ経験が少ないためであると考えられる。語のまとまりに気を付けてすらすら読める子どもは学級の半数程度であるが、音読できない子どもはいなかった(③)。これは、平仮名を読むことはできるものの、語のまとまりとしてとらえてはおらず、一文字ずつ確認しながら音読しているためであると考えられる。言語活動の紙芝居については、興味・関心が高く、作った紙芝居を基に、みんなと交流したいという思いをもっている(④)。

(4) 指導上の留意点

以上のことから、指導に当たっては、子どもたちに叙述と挿絵とを関係付けて想像を広げさせ、自分の思いや考えを、友達同士で交流することを通して、教材文や自分の考えた動物の言動や感想を言葉のまとまりに気を付けて音読させるために、学習内容の設定や指導方法を次のように工夫することが大切である。

- ア 単元・教材への関心を高めさせるために、教師が作成した紙芝居のモデルを示す。その際、自分が想像したことを反映した音読をさせるために、「紙芝居を作り、友達に読んで聞かせる」という相手意識・目的意識をもたせる。そして、「はなのみち」の物語の展開のおもしろさに気付かせるために、各場面の叙述と挿絵を並べて提示し、場面の様子を想像させる。その際、各場面の挿絵の色や登場する動物たちの様子を比較させ、季節の変化や動物たちの言動について考えたことを自分の言葉で本文に書き加えながら読み進めるようにする。
- イ 紙芝居に付け加える文を、語のまとまりに気を付けて音読しやすいものにするために、子どもたちが想像を広げて考えたことを、主述の整った文章にして板書する。また、自分自身の手で紙芝居を作り上げる達成感を味わわせるために、紙芝居の文章を書かせる際には、児童の実態に応じて、本文を全文視写させるワークシートや既に本文の一部が書かれているワークシートなど、数種類のワークシートを用意する。
- ウ 自分の学習を振り返らせ、学習の有用感を味わわせるために、自ら作成した紙芝居を友達同士で交流させ、この学習で身に付けたことを今後の自分の読書生活へ生かせるように話し合わせる。

3 目 標

- (1) 紙芝居を作ることに関心をもち、各場面における動物たちの言動等を想像しながら物語を読もうとすることができる。
- (2) 野原や登場する動物の様子に着目しながら、各場面の挿絵を比較して、場面の様子をとらえることができる。
- (3) ・ 場面の様子や登場人物の行動などについて、内容の大体を捉えることができる。
・ 叙述と挿絵を対応させながら動物たちの言動等を考え、楽しく読むことができる。

4 指導計画（全7時間）

過程	思いを連続・発展させる心の高まり	学習課題・学習内容の構造・主な学習活動	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとらす①	どんなお話かな。楽しみだな。	1 学習意欲の喚起・試し作り・課題解決の見通し (1) 教材との出会い ・ 教材文に対する初発の感想 ・ 物語の概要把握 (登場人物、場面、あらすじなどの確認) (2) 試行（試し作り） 「かみしばいをつくって、よんでみよう。」 ・ 紙芝居作りの試行（試し作り） ・ 音読の試行 (3) 課題解決の見通し ・ 単元の学習課題の設定	○ 教材への興味・関心を高めさせるために、「はなのみち」の読み聞かせをし、音読をさせたり、感想を聞いたりして、あらすじや登場人物などを確認する。 ○ 想像しながら読む楽しさを感じさせるために、教師が作成した紙芝居のモデルを示し、教材文のとおりを読んだものと、想像を膨らませて会話文を付け加えて読んだものとを比較させ、どのような違いがあるか話し合わせる。 ○ 動物たちの様子や場面の雰囲気をつえさせるために、挿絵と叙述を関係付けて想像させる。 ○ 語のまとまりに気を付けて音読させるために、子どもが想像して発言したことを「～が、～ました。」の文型に整えて板書する。 ○ 春になって花の一本道ができたことを理解させるために、挿絵同士の比較による季節の変化についての気付きと、「あたたかいかな」や「ながいながい」などの言葉とを関係付けさせる。 ○ 場面の様子をつえさせるために、付け加えた会話文を友達と比較させ、なぜそのように考えたのかを交流させることで考えを広げたり深めさせたりする。 ○ 紙芝居を作ってきたことの成就感を味わわせるために、完成した紙芝居を発表させ、友達の紙芝居で楽しく感じることをできたところを伝え合わせる。 ○ 場面の様子と比較したり、季節の変化をつえたりしながら想像して読むことの楽しさを振り返らせるために、なぜ言葉を付け加えることができたのかを考えさせる。 ○ 本単元の学習を価値付け、今後に生かすために、日常生活や他教科等で活用できそうな場面を話し合わせたり、岡信子の作品を紹介したりする。
	紙芝居を自分で作って、友達に読んであげたいな。		
	どうすればもっと楽しい紙芝居ができるのかな。		
	色塗りは、様子を考えて塗るといいな。	たのしいかみしばいにするには、どんなことがたいせつなのかな。	
しらべる・ふかめる④	絵を見て、動物がどんなことを言っているか付け足すと、楽しい紙芝居になるな。	2～5 限定された場面での試行錯誤(本時) 「ふくろをみつけたとき、くまさんはどんなことをいっているかな。」 「りすさんにききにいくとき、どうぶつたちはどんなことをいっているかな。」 「ふくろをあけたとき、くまさんとりすさんはどんなことをいっているかな。」 「ながいながいはなのいっぽんみちができて、どうぶつたちは、どんなことをいっているかな。」	
	友達の紙芝居と比べると、違うところがあったおもしろい。		
	自分が試しに作った紙芝居より、動物の様子が付け加えられたし、友達と読み合ったらすごく楽しかったよ。	6 試行(試し作り)の見直し 「かみしばいは、たのしくよめるものになったかな。」 ・ 自他の紙芝居の比較 ・ 試行と完成した紙芝居の比較	
ふりかえる①	絵本を読むときは、自分で言葉を付け加えて読んでいくと、楽しそうだな。	どうぶつがなしたことをかみがえたり、れんしゅうしてことばをはっきりとおんどくしたりすると、たのしいかみしばいになるよ。	
		7 活用場面の想起 「まなんだことを、どのようにいかせるかな。」 ・ 想像を膨らませる読み方の活用について	
いかす①			

5 本 時（5／7）

（1）目 標

「あたたかいかな」「ながいながい」などの表現や花の一本道ができて喜ぶ登場人物の様子が描かれた挿絵に着目して、春になった様子や動物たちの会話を想像して紙芝居を作り、楽しく読むことができる。

（2）本時の展開に当たって

場面の様子について登場人物の言動を考えさせるために、「あたたかいかな」や「ながいながい」という叙述に着目させ、『『かぜがふきはじめました。』や『ながい』ではいけないのか。』と問い、挿絵と関係付けて考えさせ、季節が変わり動物たちが喜んでる様子に気付かせる。

（3）実 際

過程	主な学習活動	時間	教師の具体的な働きかけ
つかむ・みとおす	1 本時の学習課題を設定する。 (1) 前時の学習を振り返る。 (2) 学習課題を設定する。 ながいながいはなのいっぽんみちができて、どうぶつたちは、どんなことをしているかな。	(分) ↑ 7 ↓	○ 身に付ける国語の能力を意識させるために、前時の紙芝居を提示し、付け加えた文章を紹介する。 ○ 叙述や挿絵など形式的価値を手がかりにして、より内容を深く読むことができるものにするために、叙述と挿絵の動物の表情と対応させて考えることのできる学習課題を設定する。
	2 課題解決の見通しをもつ。 3 教師のモデルを基に、動物たちの会話を想像する。 ひとりで考える 「くまさんがいました。『きれいなおはながさいたね。』はどうかな。 友達と比べる と み みんなと比べる 「りすさんがいました。『くまさんのおかげで、きれいなはながさいたね。』やったあ。」と花が咲いた理由を書いているね。 比較 比較 「かえるさんがいました。『春になってオタマジャクシもよるこんでいるよ。』と、春になったということを書いている友達もいるよ。季節は春なのだね。 ひ どうして、どうぶつたちはよるこんでいるのかな。 み 「あたたかい」風だから、春になってみんな気持ちがいいと感じている。私も、春になるとなんだか楽しくなるよ。 関係付け 関係付け 「ながいながい」花の一本道ができて、すごいなと思っている。場面2の絵と比べると、喜んでる様子が分かるよ。	↑ 31 ↓	○ 課題解決の見通しをもち、「ひとみ学習」で、友達との学び合いを活発にし、自分の考えを深めたり、変容を実感させたりするために、直感の考えを発表させ、思いや考えを明確にする。 ○ 動物たちが喜んでる様子をとらえさせるために、自分が選んだ動物と同じ動きをさせたり、動物を自分に置き換えて考えさせたりして、その動物が言った言葉を想像させ、紙芝居に付け加えさせる。その際、その言葉と言葉を想像した理由を交流させる。 ○ 一人一人の考えを深めたり広げさせたりするために、会話を想像して書いた動物ごとに集まらせ、「ひとみ学習」を通して、共通点や差異点を明らかにさせる。 ○ 春になった様子を捉えさせるために、「あたたかいかな」という叙述に着目させたり、場面2と4の挿絵の色遣いや動物の数や動きの違いを比較させたりする。 ○ 動物たちの言動を想像し楽しく音読させるために、「ながい」と「ながいながい」という言葉を比較させたり、挿絵の表情と対応させたりして、動物たちが驚いたり喜んだりしている様子に気付かせる。
しらべる・ふかめる	ひ 春になって、長い長い花の一本道ができたから、動物たちは驚いたり喜んだりしているのだね。 4 学習のまとめを行う。 はるがきて、はなのいっぽんみちができたことを、みんなよるこんではなしているようすをかけばよい。	↓ 7 ↑	○ 語のまとまりに気を付けて音読させるために、子どもが想像した動物の言動を「～が～ました。」の文型に整えて板書したり、工夫して音読している子を称賛し、価値付けたりする。 ○ 次時の学習への意欲を高めさせるために、友達との交流を通して新たな考えを発見したり、自分の考えの変容に気付いたりしたことを振り返らせる。
ふりかえる・いかす	5 本時の学習を振り返り、自分や友達の良かったところや、次時の学習について発表し合う。 ひ 言葉や絵をよく見ると、動物たちの言葉を想像することができて、楽しい紙芝居になったよ。他の物語でもやってみたいな。	↓	